

中露の SU-35 導入交渉は、最終段階にある？

漢和防務評論 20151030 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

今日のNHKニュースでも報道されましたが、中露のSU-35導入交渉は、協定が締結されたようです。
その間の経緯について漢和防務評論に記事がありましたので紹介します。
現在の中露の政治的立場を反映し、従来はロシアが消極的で中国が積極的でしたが、今回は立場が逆転しロシアが積極的になっているようです。

KDR パリ特電：

SU-35輸出に関する中露の交渉について、ロシア聯合航空機製造集団(UAC)新任総裁 YURI SLYUSAR は、パリエアショーの記者会見で、メディアの質問に対し次のように述べた：我々は、SU-35を24機輸出する協定を今年末に締結したい、と。記者会見後、KDR総編集平可夫は、YURI SLYUSARに直接会って確認した：貴方は、SU-35を24機輸出する協定を今年末に締結したいと述べたが、もう一度確認したい、と。YURIは、英文で直接次のように回答した：我々は、SU-35を24機輸出する正式協定を今年末に締結したい、と。

平可夫：今年のいつ、正式協定を締結できるのか？

YURI：それはわからない。我々は交渉中である。我々は締結を希望している。

UACの他の高級消息筋は、KDRに対し：交渉は継続して行われている。現在、いつ正式協定が締結できるのかは誰も知らない。一部に処理すべき細かな問題が残っている。交渉は、極めて切羽詰まっており、6月にも中国の大型軍事代表団がモスクワを訪問した。問題は、大部分以前と同様であり、中国の要求に基づいてSU-35を改修する件である。8月以降の情勢によって、それは明らかになる、と。

KDRは何度も報道したが、中国側の要求は、まずSU-35を中国向けに改修した後、輸出すべきであるとする。ロシア側は、まず航空機を輸出した後、中国側の要求に基づき改修するというものだ。その方が(戦力化が)早い、と。

かつてロシア軍事代表団は、SU-35の対中輸出問題についてコメントすることに積極的でなかった。YURI SLYUSARの上記談話は以下の意味がある：

1. ロシアは自己の立場を堅持し、まず航空機を輸出し、その後改修する。今年末に協定締結に持ち込めるのはこの方式だけである。即ち：ロシアはこれ以上譲歩しない。
2. 過去2ヶ月にわたって航空機の改修内容について交渉が行われ、すでに交渉は概

ね終了している。大きな問題は残っていない。したがって年末には協定を締結できる可能性がある。

3. ロシアは、これ以上譲歩するつもりはない。これは中国に対する一種の交渉圧力になる。ロシアの航空工業界の消息筋は次のように述べた：現在、中国以外の国も SU-35 の導入を交渉中である。先に協定を締結した国が先に航空機を獲得できる、と。

KDR は、インドネシアがロシアと SU-35 導入について交渉中であり、かつ速やかに獲得することを希望していることを知っている。もしインドネシアが先に協定を締結した場合、当然中国が SU-35 を獲得する時期が若干遅れることを意味する。

ロシア空軍に SU-35 を 48 機納入する契約は完了したばかりであり、第三国向けの機体は 2017 年以降に納入が開始されるはずである。

2015 年 1 月、YURI SLYUSAR は、MIKHAIR POGOSYAN の後任として UAC の CEO（総裁）に就任した。彼は、年齢が若く、開放的で、グループメンバーは全て交代した。

KDR：新たな UAC メンバーは、中国のスホーイ戦闘機コピー問題をどのように考えるか？前任者と異なるのか？

他の UAC 高級官員：我々は、この問題を過大視していない。なぜならこれらのコピー製品は、国際市場で SU-35 の競争相手にはなり得ないからである。

言い換えれば、新たな UAC 指導集団のコピー問題に対する考え方は、前任者と基本的に同じであると KDR は考える。すなわち中国市場は閉ざされている。もし J-11、J-15、J-16 が中国空軍だけを満足させ、輸出されなければ、中国の行為は市場にとって大きな脅威とはならない。

KDR がパリエアショーを通じて得た結論は次の通り：中国空軍は、必ず SU-35 を輸入するであろう。KDR は、中国空軍代表団のロシア航空機展示ブース前での行動に注目した。中国空軍の多くの佐官級官員が SU-35 の模型の前で争って記念写真を撮っていた。彼らは、SU-35 以外の航空機の前では写真は撮らなかった。”これが SU-35 です”と誰か（中国空軍の）が説明していた。

もし年末までに協定が締結されるならば、それは何時か？次の段階の交渉の重点は何か？過去の中露の軍事貿易を観察すると、この問題に対する判断が出来る。現在、残っている問題は、中国の要求に基づき改修された後の各技術の最終審査、及び改修の価格交渉である。相当細かく、大きな問題ではないが時間がかかる。しかも 1 回の交渉だけで終わらない。

8 月以前は可能性が低い。モスクワエアショー期間、中国側は大型代表団を派遣し SU-35 に対する最後の視察を行う。中露の大型軍事貿易の協定締結は、国際的エア

ショー期間に行われたことはない。9月、10月は、双方が相当緊張した業務を行う段階にある。通常、毎年11月に、中露の軍事技術協力委員会が開催され1年間の協力内容を討論する。この時に協定が締結される可能性が大きい。12月に大型契約が締結された例もある。

中国側は相当鷹揚に構えており、ロシア側は主動的で積極的である。現在の中露の政治的立場を反映していると言える。

以上